

# 年利42.1%の利益率 「ローリスク サヤ取り投資法」の秘密2

## 「レバレッジを効かせたサヤ取り」

トライアングلز

柿田 文和

 Triangles.jp



## 著作権について

「ローリスク サヤ取り投資法の秘密 その2」は著作権法で保護されている著作物です。本レポートの使用に際しては、下記の点にご注意ください。

本レポートの著作権は、トライアングルズにあります。著者の許可なく、本レポートの一部または全部を、あらゆる手段(紙媒体、電子媒体、映像媒体、音声媒体等)により複製、流用および転載、転売することを禁じます。



# 使用許諾契約書

本契約は、本レポートをダウンロードした個人または法人(以下、甲とする)と著者(以下、乙とする)との間で合意した契約です。  
本レポートを甲が受けとった事実を持って、甲はこの契約に合意したこととみなします。

## (第1条 本契約の目的)

乙が著作権を有する本レポートに含まれる情報(ノウハウ、テクニック等)を、本契約に基づき甲が使用する権利を有するものです。

## (第2条 禁止事項)

本レポートに含まれる情報は、著作権法によって保護されています。甲はレポートから得た情報を、乙の事前許可を得ずして出版、公演および電子媒体による配信などにより一般公開することを禁じます。また、本レポートを第三者に譲渡、転売することを禁じます。甲は、自らの使用においてのみ、本レポートに含まれる情報を使用できるものとします。万が一違反行為を発見した場合は、すみやかに弁護士を通じて法的手段によって解決を致します。

# 使用許諾契約書

## (第3条 契約の解除)

甲が本契約に違反したことを乙が判断した場合、乙は使用許諾を解除することができるものとします。

## (第4条 損害賠償)

甲が本契約の第2条に違反した場合、本契約の解除に関わらず、甲は乙に対し、その違約金として、違反件数と販売等によって得られた売上を乗じたものの10倍の金額を払うものとします。

## (第5条 責任の範囲)

本レポートは、これまでの経験により作成されたレポートであり、全ての読者の利益を保障するものではありません。また、本レポートの情報の使用に関する一切の責任は甲にあり、本レポートの情報を使用することで損害が生じても、乙は一切の責任を負わないものとします。



はじめに

---

## はじめに

「ローリスク サヤ取り投資法の秘密 その2」の無料レポートをダウンロードして頂きありがとうございます。

このレポートでは、「ローリスク サヤ取り投資法の秘密」の無料レポートをダウンロードしていただいた方に**限定**して配布するものです。

基本的な、サヤ取りの方法はご理解いただいていると思いますので、このレポートでは、**よりレバレッジを効かせて、より確度の高いサヤ取りの方法**をご紹介します。

本レポートは、本来商材として販売しているものの一部を無償にて提供しています。是非、この「ローリスク サヤ取り投資方法」の素晴らしさを確認いただき、**あなたを稼げる投資家**にしてみせます。

## 日経平均を使ったサヤ取り

この無料レポートでは「日経平均株価」を活用した、効率的なサヤ取りの方法をご紹介します。

サヤ取りは、最初に**どのような組み合わせでサヤ取りを行うのかが大事**だということをお伝えしてきました。

このレポートでご紹介するのは、**日経平均株価との組み合わせで行う少し高度なサヤ取りの方法**です。

レポートの内容も少し難しくなっていますが、**よりリスクを抑えて早く資産を増やす**ためには、絶対に知っておいて損はない知識です。

このレポートの内容も「ローリスク サヤ取り投資法」の基礎となる知識ですので、是非しっかりと覚えてください。

# サヤ取り投資法のポリシー

サヤ取り投資法は、以下のポリシーに従って投資します

- ・決してギャンブルはしません
- ・論理的に利益が出ると判断した場合しか投資しません







# 日経平均と先物取引

---

## 日経平均 – 日経平均とは？

日経平均株価は、その名の通り日経新聞社が算出している指数で、日本の株式市場では良く知られている指標です。

日経平均株価は、別名“日経225”とも呼ばれています。日経平均株価は、東証1部に上場している銘柄の中から225銘柄を選んで、その銘柄をある計算式によって算出したものです。

よって、日経平均株価は、東証1部に上場しているごく一部の銘柄で算出されている指標になります。余談ですが、東証1部の全ての銘柄をカバーしている指標がTOPIX(トピックス)と呼ばれている指標です。

参考：

[http://www3.nikkei.co.jp/nkave/about/225\\_list.cfm](http://www3.nikkei.co.jp/nkave/about/225_list.cfm)

## 日経平均 – 日経平均と日経平均採用銘柄

では、少し視点を変えて考えてみましょう。**サヤ取りでは、相関関係のある銘柄の組み合わせを抽出することが大事だ**とお伝えしました。

ここで注目していただきたいのが、日経平均株価と日経平均採用銘柄の相関関係です。

日経平均採用銘柄を買うということは、日経平均株価を押し上げる効果があります。また、日経平均が上がっているということは、日経平均採用銘柄もあげているはずで

**つまり、日経平均採用と日経平均採用銘柄には、一定の相関関係がある**ということが言えます。

**「ローリスク サヤ取り投資法」では、この日経平均株価と日経平均を構成する個別銘柄の関係にも注目しています。**

## 先物取引

実際に、日経平均株価とそれを構成する個別銘柄の間のサヤの関係が分かったとしても、**日経平均株価そのものは売買することができません。**

ですから、ここでは**日経平均株価に連動する指標として「日経平均先物」**についてご紹介します。「日経平均先物」は、**日経平均株価を売買することができる魔法の銘柄**なのです。

先物取引と聞くと危険な印象を受ける方が多いと思います。確かに、先物取引では、前回説明した信用取引よりも、より高いレバレッジを効かせた取引をするため、先物取引のリスクについては、しっかりと認識しておく必要があります。

**先物取引とは、未来のある値段で取引することを約束する事を指します。**

“先物取引”は、何も株に限った話ではありません。日経平均だけではなく、商品や為替など、あらゆるものに対して、先物取引の考え方が適用されています。まずは、先物取引の考え方を身につけてください。

## 先物取引の例(1/3)

イメージがつかみにくいと思うので、具体的な例を挙げてご紹介します。  
イメージを理解するのに、商品先物の方が分かりやすいので、商品在具体例としてあげます。

今、ガソリンの価格が高騰していますよね？  
原油相場の高騰によって、我々の生活を圧迫してきています。

今、ガソリンが1リットル150円で売っているとしましょう。  
あなたは、まだガソリンの価格は高騰すると思いますか？

もし、ガソリン価格が高騰すると思うのであれば、今の150円はお得に感じますよね？

でも、今すぐガソリンが欲しい訳ではない。  
そこで、**半年後に150円で売って欲しいという約束**をします。  
**この約束のことが先物取引です。**

## 先物取引の例(2/3)

ここでは、ガソリンを例に挙げて説明しました。

半年後に150円で売って欲しいというのは、**半年後にガソリンを150円で買うことができる権利を買う(先物買い)**訳です。この場合、ガソリンの先物取引市場で150円でその権利を買います。

予想通り、ガソリン価格が高騰して、半年後に170円になっていたとしましょう。でも、あなたは権利があるのでガソリンを150円で買うことができますのです。

あなたが、そのままガソリンを消費したいのであれば、そのまま使ってもらえば良いですし、不要なのであれば150円で仕入れて170円ですぐに売ることができ、20円の利益を得ることができます。

## 先物取引の例(3/3)

今は、ガソリン価格があがる時の例でお話しました。

反対に、ガソリン価格が下がると予想したときはどうでしょうか？  
この場合は、ガソリン先物市場で、**半年後にガソリンを150円で売る権利(先物売り)**を取引しておきます。

予想通り、ガソリン価格が下がって130円になったとしましょう。  
あなたは、130円でガソリンを仕入れても、150円で売ることができるのです。つまり、20円の利益を得ることができるのです。

実際には、先物市場では実際の商品を持たずとも取引はできます。

先物取引のイメージができたでしょうか？

## 日経平均先物

商品の方がイメージしやすいので、ガソリンを例に挙げて先物取引を説明しました。

**日経平均先物についても考え方は全く同じです。**

将来、日経平均株価があがると思うのであれば、日経平均先物を買う。逆に、下がると思うのであれば、日経平均先物を売っておけば良いのです。

イメージは、信用取引とほとんど同じです。**日経平均先物取引は、買いからも売りからも入ることができます。唯一違うのは、先物取引は将来のある時点についての価格についての取引だということです。**



## 日経平均先物ミニ

日経平均先物の商品には、2種類の商品があります。

日経平均先物

日経平均先物ミニ

この2つの商品の種類の違いは、売買単位にあります。日経平均先物は1000倍、日経平均先物ミニは100倍となります。

日経平均株価が13,000円だったとしましょう。この時に、日経平均先物の  
売買金額は

$$13,000円 \times 1000 = 1300万円$$

日経平均先物ミニの売買金額は、

$$13,000円 \times 100 = 130万円$$

となります。

実際の投資にあたって、こんなにたくさんの資金は必要ありません。ここでは、日経平均先物の2種類の商品があることを覚えてください。

# 日経平均先物取引のメリット

日経平均先物取引を利用すると、いくつかのメリットがあります。

大きなメリットは、次の3点です。

投資額に対して高いレバレッジが効く  
出来高、流動性が高い  
個別銘柄との連携度が高い

ローリスクなサヤ取り投資を実践するためには、日経平均先物取引は、なくてはならないものです。

ここでは、日経平均先物取引を利用するメリットをご紹介します。

## 日経平均先物取引のメリット – 高いレバレッジ(1/3)

信用取引では、自分の資金に対して約3倍の投資をすることができるというレバレッジの効果をご紹介しました。日経平均先物取引では、より高いレバレッジを効かせた投資を行うことができます。

イートレード証券の場合は、約14倍のレバレッジを効かせることができます。(レバレッジの幅は、証券会社によって多少異なります)

日経平均先物ミニの例でレバレッジの効果を説明すると・・・

日経平均先物ミニ 13,000円で先物買いをする時  
資金9万円:  $13,000円 \times 100 = 130万円$

たった、9万円の資金で130万円もの投資をすることができてしまいます。

## 日経平均先物取引のメリット – 高いレバレッジ(2/3)

では、13,000円で先物を買った後に、14,000円になったらどうなるでしょうか？

**14,000円 × 100 = 140万円**  
**資金: 9万円 → 19万円 (111%アップ!!)**

なんと、日経平均株価が1000円アップしただけで、資金は2倍になってしまいました。日経平均先物取引を利用すると、すごい速さで資産を増やすことが可能です。

ただ、当然リスクもあります。意図せず反対に動いた場合は、あっという間に資産を失ってしまいます。**レバレッジとリスクの関係は、信用取引と全く同じです。特に、先物取引ではレバレッジの効果が非常に高いので、信用取引以上に注意する必要があります。**

## 日経平均先物取引のメリット – 高いレバレッジ(3/3)

先物取引にはリスクがあるのは確かです。  
ですが、もう一度サヤ取り投資法のメリットを思い出してください。  
圧倒的に、損切りすることが少ないのが特徴です。  
先物取引のリスクは、サヤ取り投資法においては大きなリスクではありません。

先物取引に対して正しい知識を持っていれば、先物取引を使わない手はありません。その方が、圧倒的に早く資産を増やすことができるのですからです。「レバレッジ」効果は、サヤ取り投資法においては大きなメリットです。

まだ、信用取引もやったことがない人は、まずは信用取引になれてもらった方が良いでしょう。その後、慣れてきたら先物取引を使って、資産を増やすペースを加速するのが良いと思います。

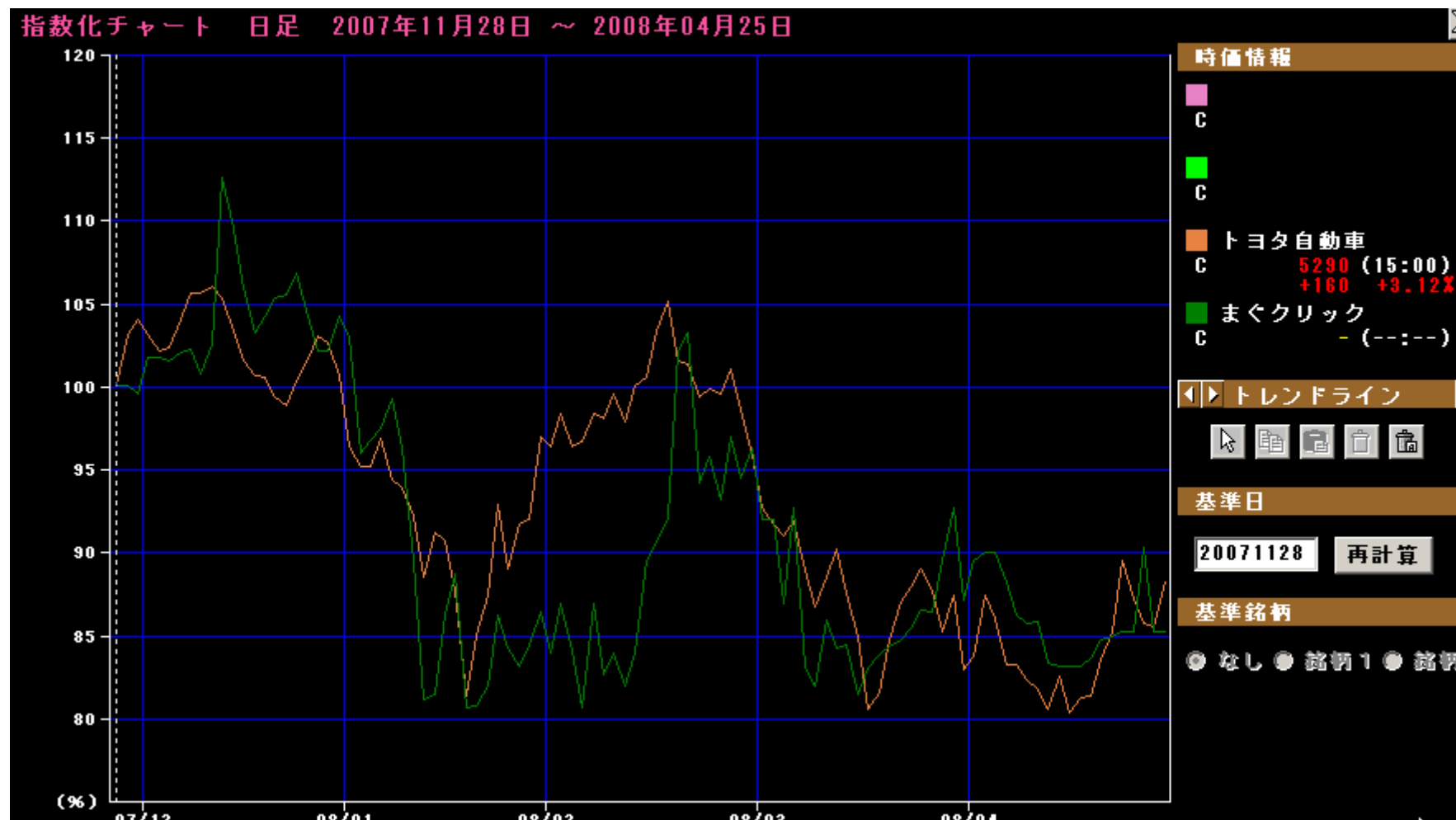
## 日経平均先物取引のメリット – 出来高・流動性が高い(1/2)

先物取引のメリットとして、出来高・流動性が高いというのがあります。

サヤ取り投資においては、買いと売りの2つの組み合わせが必要になってきます。サヤ取りをする対象に選んだ銘柄が、あまり人気がなく出来高が少ない場合は、意図しない値段で約定する危険性があります。

例えば、トヨタ自動車(7203)とまぐクリック(4784)の2つの銘柄が相関関係が高かったとしましょう。

# トヨタ自動車とまぐクリックの相関関係



## 日経平均先物取引のメリット – 出来高・流動性が高い(2/2)

トヨタ自動車(7203)は有名な会社ですので、毎日たくさんの出来高があるので問題ないでしょう。

しかし、まぐクリック(4784)は、1日数株くらいの取引がありません。

せっかく、相関関係の高い組み合わせを見つけたとしても、実際に投資可能かどうかは、その銘柄の出来高がある程度は必要になってきます。

日経平均先物は、毎日何百億もの金額が取引がされています。まず、個人の売買で値段が動くようなことはないでしょう。

だから、連動性の高い銘柄を見つける時に、片方に日経平均先物を選択できるというのは、組み合わせの幅を増やすことに繋がります。

日経平均先物を使えば、よりかんたんに組み合わせを見つけることができます。



## 日経平均先物取引のメリット – 個別銘柄との連携度が高い

日経平均株価は、ほとんどの投資家や社会が参照している経済の指標として使われています。日経平均株価に採用されている銘柄はもちろんですが、それ以外の銘柄も日経平均株価との連動性は基本的に高くなります。

日本経済が好調な時は、日経平均株価も上がるであろうし、それに連動して個別銘柄もあがるはずです。

つまり、個別銘柄との連動性が高いということは、日経平均先物がサヤ取りをする時の組み合わせの対象として大変適しているということの意味しています。

## 日経平均先物取引のメリット – まとめ

日経平均先物取引のメリットについてお話してきました。

サヤ取りのための組み合わせを見つけることが一番大事で時間のかかる作業です。

しかし、日経平均先物を使うことで、後はもう一つの個別銘柄だけを見つければ良くなるため、圧倒的にかんたんにサヤ取りができるようになります。

しかも、より早く資産を増やすことができます。

実際には、いきなり日経平均先物取引をするのは難しいので、特に初心者の方は信用取引から入って徐々に慣らしていくのがよいでしょう。

# 日経平均先物を使った サヤ取りの実践方法

---

## 「日経平均先物 サヤ取り投資」の4つのステップ

実際に日経平均先物を使った、サヤ取りの方法について4つのステップをご紹介します。

この4つのステップは、前回の無料レポートでご紹介した流れと同じです。投資する銘柄が違うだけですが、どんな違いがあるのか見ていただければ良いと思います。

「サヤ取り」投資をするためには、大きく以下のようなステップで行います。

1. 相関関係のある2つの組み合わせを見つける
2. 2つの組み合わせに「サヤ」が発生するのを待つ
3. 「サヤ」が発生した時点で「両建て」を行う
4. 「サヤ」が元に戻った時点で「決済」を行う

## 相関関係のある2つの組み合わせを見つける

ステップ1の「組み合わせを見つける」です。

片方は日経平均先物取引を使いますので、あとは日経平均株価と連動性のある個別銘柄を見つければ良いのです。

最も分かりやすいのは、**日経平均株価に採用されている225銘柄を対象にすることです**。これは非常に単純で分かり易く、かつ連動する必然性のある銘柄です。

必ず日経平均株価と100%連動するとは限りませんが、相関関係のある組み合わせとしては候補として考えても良いはずです。

## 「サヤ」の発生を待つ

ステップ2の「サヤの発生を待つ」です。

サヤの発生を監視するためには、日経平均株価と監視対象としている日経平均採用銘柄の225銘柄をチェックしなければなりません。

ですが、人手でこれを実施するのは不可能ではありませんが、大変な時間を必要とします。

「ローリスク サヤ取り投資法」では、日経平均株価と日経平均採用225銘柄のサヤをパソコンで計算し、サヤの発生条件を自動的に見つけてくれます。

ですから、「ローリスク サヤ取り投資法」を実践すれば、あなたはサヤの発生をわざわざ見つける必要はないのです。

## 「両建て」を行う

ステップ3の「両建てを行う」です。

パソコンの計算によって一定のサヤが発生したことを確認したら、両建てを行います。この時の両建てとは、

日経平均先物買い＋個別銘柄売り  
もしくは  
日経平均先物売り＋個別銘柄買い

のいずれかの方法で両建てを行います。

この時のルールも、前回のレポートと同じです。

- ・買いと売りを同じタイミングで実施する
- ・買いと売りの金額をできる限り同じ金額に近づける

この2つの基準に従って投資をしていきます。

## 「両建て」を行う - 買いと売りの金額をできる限り同じに

両建てするときの、売りと買いの金額はできるだけ同じにする必要があります。

ここで1点注意です。日経平均先物ミニの場合でも最低売買単位は100倍となっています。つまり、**日経平均株価が13000円**のときは、**130万円**の倍数でしか投資できないということです。

例えば、もう一つの個別銘柄の株価が90万円だったりすると、なかなか同じ金額にすることができません。

**同じ金額にできないような場合は、投資対象として諦めてください。**「ローリスク サヤ取り投資法」では、ギャンブルはしないのがポリシーです。

資金量の違いというのは、こういうところでも表れてきます。**資金量が少ない**というのは、それだけで不利な条件なのです。



## 「決済」の実行方法

ステップ4の「決済」を実行します。ここは、サヤ取りの基本と同じです。

お勧めの方法は「両建て」から何%の利益が出たら決済すると決めておくことです。

「決済」するときのポイントは、「両建て」の時と同じで、「決済」のタイミングを同じにすることです。決して片方の銘柄だけ持つようなことをしないように心がけてください。寄りと引けのタイミングを使い、成行で注文することでタイミングを同じにすることができます。

# 日経平均先物を使ったサヤ取りの実例



## 日経平均先物を使ったサヤ取りの実例 - 「サヤ」を待つ

日経平均先物ミニとトヨタ自動車(7203)を使った、サヤ取りの例をご紹介します。この取引については、実際の投資結果を公開しているものです。

赤矢印の2月14日に仕掛けて、青矢印の2月25日に決済しています。

「ローリスク サヤ取り投資実践ツール」を使って、日経平均とトヨタ自動車のサヤが発生していることを発見します。グラフを見て頂いても分かると思いますが、それまではぴったりと日経平均と連動していたものが、乖離が発生し始めました。これは大きなチャンスです。

日経平均との連動性が高いトヨタ自動車の場合は、10%の乖離が発生した時点で投資チャンスとシステムが判断します。

## 日経平均先物を使ったサヤ取りの実例 - 「両建て」を行う

日経平均先物ミニとトヨタ自動車(7203)の両建てを行います。

両建てするときの値段が

日経平均先物ミニ: 13,000円

トヨタ自動車(7203): 6,000円

でした。

ここで、金額差をできるだけ同じにするために、

日経平均先物ミニ 買い:  $13,000円 \times 100倍 \times 3枚 = 3,900,000円$

トヨタ自動車(7203) 売り:  $6,000円 \times 600株 = 3,600,000円$

としました。どのくらいの金額差を許容するかは、それぞれの判断が良いと思いますが、投資額に対して1割以内の誤差というのを基準に考えています。

「ローリスク サヤ取り投資法」では、この投資金額計算を行うツールも補助ツールとして提供しています。

## 日経平均先物を使ったサヤ取りの実例 - 「決済」する

あとは「両建て」したものについて、サヤが縮小するのを待つだけです。トヨタ自動車とのサヤの場合は、利益確定および損切り共に±5%と設定しています。どれだけ、大きなサヤが発生していたかによって、とれる利益も違ってきますが、欲張らないように設定しましょう。

見込み通り、5%サヤが縮小して「決済」する時が来ました。同時に「決済」しましょう。

**日経平均先物ミニ：返済売り**  
 **$(13,550円 - 13,000円) \times 100倍 \times 3枚 = 165,000円$**

**トヨタ自動車(7203)：返済買い**  
 **$(6,000円 - 5,940円) \times 600株 = 36,000円$**

**合計：160,000円 + 36,000円 = 201,000円の利益！！**

となります。(手数料は考慮していません)

## 日経平均先物を使ったサヤ取りの実例 – 投資対効果(1/2)

では、今回の実例での投資対効果を見てみましょう。今回の事例だと、日経平均先物ミニの買いで390万円くらい、トヨタ自動車の買いで360万円くらいの投資金額が必要でした。

ですが、実際には信用取引＋先物取引を活用していますので、実際に必要だった資金は・・・

トヨタ自動車：360万円 ÷ 3 = 120万円

日経平均先物：390万円 ÷ 14 = 28万円

となります。つまり、最低150万円くらいで、これだけの投資をすることができるのです。実際には、追証が発生しないように、200万円くらいの資金はあったほうが良いでしょう。

今回の実例では、約20万円の利益を得ることができました。200万円の資金で20万円の利益ということは、約10%の利益率ということになります！

## 日経平均先物を使ったサヤ取りの実例 – 投資対効果(2/2)

しかも、今回投資していた期間は11日だけです。たった11日で10%の利益が得られるとしたら、1年間でどのくらいの利益になるのでしょうか？

もちろん、サヤ取り投資法を使ったからといって、100%勝つことは難しいかもしれませんが。しかし、既にサヤ取りの理論については説明してきているように、高い確率で勝つ事ができます。

株の場合は、損切り・利益確定が規定通りにできれば、勝率50%で損得なしになるはずですよ。ですから、本来は60%の勝率でも儲かるはずなんです。

勝率が高いということが、いかに継続した利益をもたらしてくれるか？お分かりいただけるでしょうか。

## 日経平均先物を使ったサヤ取りの実例 – 信用取引との比較

では、先物取引を使うと、どのくらい資金効率が良いのでしょうか？

仮に100万円の資金で運用したとすると、

信用取引の場合：

$$100\text{万円} \times 3\text{倍} = 300\text{万円}$$

信用取引＋先物の場合：

$$80\text{万円} \times 3\text{倍} = 240\text{万円}$$

$$20\text{万円} \times 14\text{倍} = 280\text{万円}$$

となります。信用取引と先物取引を組み合わせる方が、約1.7倍資金効率が良いことになります。

ですから、勝率が50%を超えている投資法であれば、先物取引を組み合わせる方が、1.7倍速く資産を増やすことができるのです。



## ！！注意！！

先物取引を使ったサヤ取りは、資金効率は高くなりますが、サヤ取りに慣れていない人がやると、資産を減らしてしまう可能性がおおいにあります。

先物取引を使ったサヤ取りをする場合は、以下の条件を確認してください。

- ・信用取引での経験を積んでいる
- ・サヤ取り投資について理解し、利益を上げられるようになっている
- ・先物取引について理解している
- ・自己責任として投資に取り組むことができる

以上の条件を満たしていない人は、まずは知識と経験を積んでください。



最後に

---

## 最後に

「ローリスク サヤ取り投資法」のより進んだ応用編ということで、日経平均先物を使った投資法をご紹介します。

なぜ、日経平均だとサヤ取りが楽にできるのか？

なぜ、よりローリスクな投資ができるのか？

なぜ、ハイリターンが期待できるのか？

ご理解いただけたでしょうか。サヤ取り投資法こそ、個人投資家が安定して利益を得ることができる唯一の投資法ではないかと考えています。

さらにそれを拡張した「ローリスク サヤ取り投資法」は、個人投資家に大きな資産をもたらす投資法であると確信しています。

あなたも、この投資方法を実践して稼げる投資家になりましょう。

## お問い合わせ



「ローリスク サヤ取り投資法」についてのお問い合わせは、

トライアングルズ

kabu-admin(あつと)triangles.jp (あつとを@に変えてください)

までお願いします。

■ローリスクサヤ取り投資法

<http://sayadori.org/>